

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070700396		
法人名	有限会社入ヶ谷福祉		
事業所名	グループホームよろこび		
所在地	群馬県館林市入ヶ谷町		
自己評価作成日	平成31年1月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成31年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月自主避難訓練を取り入れたことによって、現在の利用者様のADLをさらに知ることが出来るようになり、職員がレクリエーションを行うときにも、ただ漠然と行うだけでなく、レクリエーションを行うときに利用者様が何処まで理解して出来ているのか？何処まで体が動かせるのだろうか？など視点を変えて取り組めるようになってきました。 推進会議の場では、災害(水害対策、対応)のついでの話合いなどをこまめに行い、市や地域の皆様との連携を取りスムーズに避難が出来るように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員を育成するため、『利用者自分の親と思ふ事』や、『楽しみながら業務にあたる』よう理解しやすい資料を利用し、具体的な声かけの方法や職員相互に気づきあえる環境づくりをしている。利用者が安心してすごせる環境づくりには、アセスメントを参考に入居後1ヵ月位の時間をかけ、見守りしながら支援方法を作り上げている。毎月季節感のある企画を立て、外出やおやつ作りをはじめ、おたのしみ行事を充実させている。地域特有の災害である水害対策については、運営推進会議で検討し、行政への協力依頼や事業所独自で避難場所を確保するなど、力を入れた取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス、朝礼等で周知徹底を図っています。又、施設長・リーダーなどが個々に相談等にも対応している。	新入職員へは理念をふまえ、『親と違って』『利用者はもちろん職員も楽しめる』事が自覚できるよう支援手順や声かけ方法など、解りやすく説明している。職員同志が気づきあえる環境づくりに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の活動(お祭り、定期的に神社の清掃)にも参加する。ホームの行事にも地域の老人会等の方々に参加され年々交流を深めています。	自治会に加入している。地域の祭りや神社清掃にも参加している。ホームのよこび祭りの開催は回覧板で知らせ交流している。中学生の社会体験や専門学校生の実習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校、支援学校生徒の福祉体験受け入れ・支援学校の先生の初任者研修を受け入れて、認知症に対する理解や支援の方法を認識してもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、年6回実施し常にサービスの状況を伝え、行政、地域住民、ご家族の意見を参考により良いケアの提供に努めています。よこび便りにてご家族様の参加も促しています。	法人3事業所合同で2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。行政担当者・地域代表者は毎回出席している。家族代表者が決まっております。参加は少ない。	運営推進会議は、行政・地域・家族が意見交換のできる場であるので、会議の案内・議事録を全家族に配布し参加を働きかけてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	同上、行政のご意見、ご指導を積極的に取り入れ協力体制の構築を行っています。	管理者は介護保険・生活保護に伴う手続き等で行政窓口に出向き、介護保険の更新代行・認定調査の立ち合いも行っている。包括支援センターからの緊急な依頼もあり、連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ夜勤者1人になる為、玄関は施錠しています。その他の身体拘束に関しては、カンファレンス、業務会議等にて再度認識を深めています。スピーチロックの意味も教えて、声掛けの工夫を行っています。外に出る利用者様には、必ず職員が付き外出しています。	身体拘束のない支援について確認しあい、昼間は玄関の鍵はかけていない。スピーチロックについて具体的な声かけの仕方を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止に関する勉強等は、日常業務の中やカンファレンス、朝礼(申し送り)などで継続して行っております。内容に関しては申し送りノート等で各職員への周知徹底を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護に関する勉強等は、日常業務の中やカンファレンス、朝礼(申し送り)などで継続して行っております。内容に関しては申し送りノート等で各職員への周知徹底を図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時に又、解約時にご利用者様、ご家族様に皆様に十分な説明を行って、ご理解を得ております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用様の病院、訪問マッサージ、訪問歯科などの受診等ご家族様の要望に施設側が対応したり、ご利用様の外出の希望を聞いたり(買い物等)実践できているよ思います。	家族の気持ちを受け止めるため、毎月ケアマネジャーが自宅に出向き要望を確認している。利用者の要望はその時々々の気持ちや状況に応じ、食事時間をずらしたりカラオケを楽しんでもらうなど臨機応変に支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見の反映は、管理者及びリーダー職員が各職員の意見の集約を行い、カンファレンス、朝礼(申し送り)などで継続して行っております。内容に関しては申し送りノート等で各職員への周知徹底を図っております。	管理者やリーダーは、職員の要望を個別に把握した上で集約し、申し送りや会議ノートを活用し実践している。希望休や有休の希望にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備は、代表者が現場確認をしたり、管理者と話し合い、給料の見直し等を行い、働きやすい環境整備を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	流動的な介護人材の育成は困難を伴いますが、実際に新しく入職した職員のスキルが向上しないと運営に支障をきたす場合がある為、新人教育には特に注力して行っております。又、現職員もスキルアップの為社外の研修を受けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県の地域密着型サービス連絡協議会に加入し、様々な研修や会合に参加させていただいております。又、市内の同業者様との交流も行い、情報交換も行って、サービスの向上に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の要望や訴えには傾聴を行い、安心感や信頼感を得られ路用努力しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様のご家族の要望等は、契約前、契約時などに時間をかけてしっかりと話し合い、又、いつでも施設見学、相談等を行いご理解や安心感、信頼関係を得られるよう努力しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族様、双方の求めていることや必要としていることをしっかりと把握して、他のサービス利用も併用しながら対応するように努力しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には出来る範囲で、家事や施設の行事等に参加して頂きながら、出来るだけ一方通行の関係にならないように努力しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約の締結時からそれ以降も、入居者様やご家族の皆様には十分な説明を行って、施設とご家族様が相互に補完し合える関係性の構築を行い、出来るだけ一方通行の関係にならない様に努力しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、受診等で支援しております。今でもご入居以前のご友人や、ご親戚の方も面会に来られております。今後もこのような支援を行ってまいります。	家族の面会も多く、友人等の面会もある。畳スペースを利用し、洗濯物たたみなど、できることをしてもらっている。レクリエーションでは、ジャム作りなど、入居前にしていたことも取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出等で、ご利用様同士のコミュニケーションを取れるよう支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全てのご利用様ではありませんが、退去後も折に触れ連絡を取り、近況の確認をしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常業務の中や、カンファレンス、業務会議、朝礼(申し送り)等にて各職員、パート職員が検討しております。内容に関してはカンファレンス、業務会議、朝礼(申し送り)ノート等で各職員への周知徹底を図っております。	日頃の生活の中で、会話を通し受けとめ実践に活かしている。言葉で表現できない場合には、様々な声かけをし、選択できるよう工夫して意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、入居時にはアセスメント表にて受け入れの検討会を行います。その時に左記の内容に関して検討し職員間の周知を図っております。又、入居後もご家族の面会時及び電話等にて都度確認を行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上です。入居時に良く観察したり、ご本人様の話を傾聴し左記の内容に関して検討し、職員間で現状の把握に努めております。又、入居後もご家族の面会時及び電話等にて都度確認を行っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、業務会議、朝礼(申し送り)ノート等で検討し計画の作成、周知を図っております。又、ご家族の面会時及び電話等にて都度確認を行っております。	毎月モニタリングを行ない、3ヶ月ごと、又は状態が変化した時に計画を見直している。担当者会議は、状況が変化した必要時に開催している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左記の内容も同上で、カンファレンス、業務会議、朝礼(申し送り)ノート等で検討し計画の見直し、周知を図っております。ケース記録にも状態の変化など気づいたときは記入を行い、申し送り等にて情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会や外出、受診等で支援しております。又、急変時の緊急対応や行政申請(介護保険)にもご利用者様やご家族様の支援を行っております。他では、行事ごとの際、ご家族様を施設まで送迎なども行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時に館林関内や周辺の施設を利用し、よるこびでの暮らしを楽しんでいただけるよう工夫を行っております。又、近隣の神社の清掃作業もご利用者様と各職員で定期的に行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者や計画作成担当者及びリーダー職員が看護や医療の窓口を兼務しております。ご利用者様、ご家族、主治医と相談の上、疾病の内容によって専門医を受診するなど支援しております。	希望するかかりつけ医に受診できる事を説明している。現在は全員が協力医の往診を月2回受けており、随時対応してもらえる。訪問歯科が利用できる。専門科受診は事業所でも支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者や計画作成担当者及びリーダー職員が看護や医療の窓口を兼務しておりますので疾病の内容によっては専門医を受診するなどして、ご利用者様が適切な医療を受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や計画作成担当者及びリーダー職員が看護や医療の窓口を兼務しておりますので、ご利用者様が適切な医療を受けられるよう医療関係者との関係作りを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者や計画作成担当者及びリーダー職員が看護や医療の窓口を兼務しております。重度化した場合、ご本人やご家族と今後の状態を話し合い、方針を決定し共有しながら支援に取り組んでいます。	本人・家族の意向を確認した上で、協力医等関係者の連携のもと、終末期支援の方針に沿って、直近1年でも看とり支援をした事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、管理者や計画作成担当者及びリーダー職員が看護や医療の窓口を兼務しておりますので急変時には適切な緊急対応を取っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回消防署員、民間業者等に協力していただき実施しております。更に毎月自主避難訓練も組み入れております。又、事業所代表も防災士の資格を取り、より一層の災害対策に取り組んでおります。	昼夜想定で消防署立会の総合訓練を年2回、自主訓練を毎月実施している。水害対策は地域・行政と連携し、注意勧告発令時の避難開始と事業所独自でも避難場所を確保した。食品・水・排泄用品は、3日以上ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人でプライバシーポリシーを策定し、ご利用者様のプライバシー保護に努めております。又、職員全員に説明を行ったうえで、守秘義務誓約書をとっております。	声の大きさに配慮し丁寧な声かけを心がけている。呼称は現在希望に応じているが、「〇〇さん」に統一する事と食事の際のエプロン着用についても、利用者の状況に合わせた支援を検討したいと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員がご利用者様の意向をよく確認し、一緒に買い物などに出かけ、自己決定が出来るように支援していると思います。なかには判断が難しいご利用者様もおりますので、その場合は職員が推量して支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を摂る時間がゆっくりのご利用者様もいますし、入浴に時間がかかる方もいます。出来るだけ個人個人のペースに合わせた支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各職員がご利用者様に衣類を季節ごとに交換したり、1日に何回も着替えられる方のお手伝いを行ったり、まめにお洗濯をしたり出来ることは支援していると思います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各職員がご利用者様の好みの料理を確認したり、聞き取りの難しいご利用者様にはご家族様に確認したり、嚥下不良の方の食事やオヤツを工夫したり出来る限り支援しています。又、ご家族様と一緒におやつなども作って楽しんでいただいております。	食事は主に隣接事業所で作り配膳している。掲示している献立は希望する家族に渡している。食事の時はほうじ茶を提供し、お茶の時間や夜間でもコーヒーや紅茶など希望を聞いて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各職員がご利用者様の状態や体調をよく確認しカンファレンス等で厨房のスタッフと話し合い個人個人に適したものを提供できるように支援しております。又、食事摂取量と水分チェック表につど記入しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事を摂った後は口腔ケアを実践しております。又、義歯の管理も徹底して行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の状態や体調をよく確認し、支援しておと思います。ご利用者の状態で排泄の支援の仕方は変わっていくと考えております。出来ることはやっていただき、出来ないところを介助しております。	トイレで排泄支援することを基本にしている。排泄補助用品は昼夜で変えている利用者もいる。夜間のみポータブルトイレを使用する人もいる。トイレ誘導時は「花見に」と声掛けを統一している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクやリハビリ又は便秘の予防に一環として、リハビリ体操や歩行の支援を行っております。食事の内容も食物繊維の豊富なものを取り入れていると思います。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ支援していると思います。拒否の強いご利用者様に対しては、時間をずらして対応したり、又、入浴日の固定を排除しご利用者様のタイミングで入浴して頂くように改善しております。	一般浴支援は月・水・金、機械浴支援は火・木になっている。週2～3回の入浴支援をしているが、職員体制上、中止となることもある。入浴ができなかった日には、陰部洗浄・清拭・全更衣の支援はしている。	入浴日の固定化を防ぐ工夫や職員体制の理由で入浴中止になる現状について、利用者の意向に沿ってどのように工夫できるか、引き続き検討していただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者が認知症である為、細かい内容まではご理解いただいているか難しいですが、各職員がご利用者様の状態や体調をよく確認し状況に合わせた安眠や休息の支援を行っていると思います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が認知症である為、細かい内容まではご理解いただいているか難しいですが、各職員が出来るだけ説明して服薬支援を行っていると思います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や洗濯ものたたみ、おしぼり作り、又、キッチンの中で一緒に準備出来るご利用者様にはご協力していただいたり役割を担ってもらい、自分は必要な人間なんだと思っただけのように支援していると思います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ支援していると思います。季節ごとのお花見等を企画し実施しております。普段の生活の中でも職員とともに散歩や洗濯物を外に干しに行ったりと、安全に配慮して屋外へ出やすい環境を整えております。	年間行事やお楽しみ企画を計画し、花見や地域行事の見学に出かけたり、買い物ではお金の支払いなどもしてもらっている。散歩や日光浴を兼ねて屋外に出ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭や貴重品の所持については、以前ご利用者様が紛失したことが問題になり、それ以後トラブル防止のため、施設内での金銭及び貴重品の所持は禁止させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	管理者や各職員がご利用者様の要望を聞き、電話を掛けたり、手紙を出したり出来るように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く取っており、ご利用者が自由に過ごせるように工夫していると思います。季節感を取り入れた装飾を施したりして楽しんでいただいております。	玄関から入ると広い共有スペースが見渡せ、開放的である。気になる臭いもない。畳のスペースを利用して洗濯物をたたんだり、作品作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は広く取っており、ご利用者が自由に過ごせるように工夫していると思います。又、居室ではゆっくりお一人で過ごされたりしているようです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込まれるなどして、出来るだけ居心地良く過ごして頂けるよう工夫していると思います。	居室では自由に過ごしてもらえるよう入居時に話をしている。購読している新聞を読んだり、CDでクラシックを聴いている人、化粧をし身支度を整えてから共有スペースに出てくる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂といった掲示物の設置を行うなどして、出来るだけ安全に配慮して、工夫して支援していると思います。		